



浜松ユネスコ協会

UNESCO HAMAMATSU

ユネスコ会員綱領

- 心の中に平和の守りを固めよう
- 教育・科学・文化の発展に努めよう
- すべての人間の尊厳を重んじよう
- 民族間の疑惑と不信をのぞこう
- 世界を友愛と信頼のきずなで結ぼう

No.171

2018.7.20

発行：浜松ユネスコ協会
 発行人：会長 小島暉壯
 TEL (053) 463-0458
 FAX (053) 463-0458
 編集(広報委員会)阿部行俊

第3回ユネスコ科学教室 「微生物とホタル」

～水1滴の中の世界～

6月16日(土) 於：静岡文化芸術大学



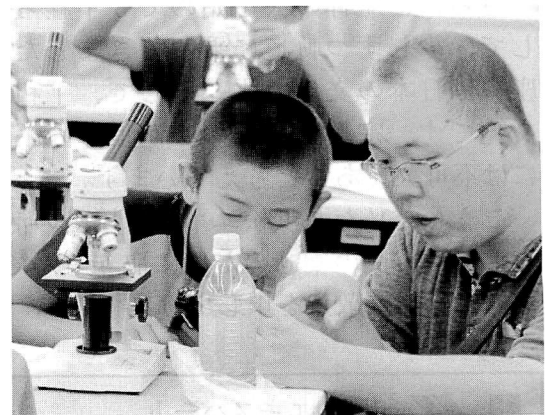
水は生命の「ゆりかご」です。水たまりや池の中にある小さな世界に、生命の姿を探しました。

子供たちは、顕微鏡の操作方法を学んでから、各自で採取してきた水の観察を始めました。程なくして、そこかしこから歓声が上がります。ふ化したばかりと思われる幼生の塊を発見した子供、ミカズキモを発見した子供など、スタッフも初めて見る光景に、子供共々大興奮しました。また、サンプル水からは、ミドリムシやボルボックス、そしてアメーバの発見に大きな歓声が上がりました。

ノーベル医学賞の大村智博士は土壌細菌から偉大な発見をされました。微生物も単に命のネットワークだけの存在ではなく、医学的に益々、重要な存在になるであろうと思いました。

別室では、ホタルを観察しました。その神秘的な光は、水を含む周囲の環境が整うことで育まれます。子供たちの心に、ホタルの美しい光と共に、地球の自然を守ることの大切さが刻まれることを願います。

(池内伸彰)



浜松ユネスコ協会 2018年度通常総会

5月13日(日) 於：ホテルコンコルド浜松

2018年度浜松ユネスコ協会通常総会が開催されました。会長、来賓の挨拶に続いて岡本顧問を座長に議事が進められ、2017年度の事業報告、収支決算、賛助会員の承認、2018年度の事業計画、収支予算が議決されました。また、本年度は役員を選任が行われました。

～会長挨拶～

～国際平和と市民のためのユネスコ活動～

浜松ユネスコ協会 会長 小島逞壯氏

このユネスコ協会の総会は、私たちユネスコ協会が国際連合の掲げる教育・科学そして文化を通して心に平和の砦をつくるユネスコの理念に対して、それにふさわしい活動ができたかどうかを振り返る会です。

まず、31回目(32年目)を迎えたユネスコ科学教室はさらに進化してきました。市民からの反響はとて大きいと実感しています。また、親子公園探検隊の活動には、かつて日本ユネスコ協会連盟の事務局長を長く勤めた尾花珠樹さんら鎌倉協会の方々が視察に来られ励ましの言葉を頂きました。鎌倉ユネスコ協会からの視察は2年続けてになりました。

そして、未来遺産「私のまちのたからもの」の展覧会と表彰式では、浜松市役所の部長様から「この活動は素晴らしい。止めないでください。」と言葉をいただきました。子供たち自身が自分の町を誇りに思い、良くしようと考えることは、子供たちの心にシチズンスピリットを養うことであり、将来、町を支えていく立派な市民を生むものと考えています。この展覧会の本当の意味を理解する人が役所の中にもいたことを嬉しく思いました。

また、国際グローバルフェアに浜松ユネスコ協会として、初めてお茶会を開きました。東南アジアの方々やブラジル領事も非常に喜んでくれました。大きな進歩です。

さらに、座禅の会を始めて3年経ちまして、少しずつ軌道に乗ってきました。座禅は日本の文化です。そして、平和の文化です。宗教の慈悲の心が世界の平和には不可欠であると考えています。

こうした私たち浜松ユネスコ協会の活動は、決して大きなものではありません。しかし、ひたすら平和や市民の幸せのために取り組んで参りました。これは会員皆様の支えがあってのお蔭です。皆様に感謝と敬意を申し上げます。

(要旨抜粋)



印刷のエキスパート
株式会社開明堂
 TEL <053> 471-6231(代) FAX 473-0778

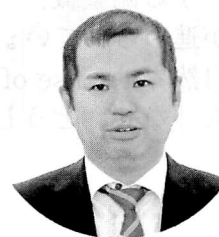
遠州鉄道グループ
ホテルコンコルド浜松

～来賓挨拶～

衆議院議員 塩谷 立氏(代理 青島 大氏)

2018年度浜松ユネスコ協会総会が、多数の会員の参集のもと盛大に開催されることをお喜び申し上げます。国内三番目のユネスコ協会として1948年にスタートした浜松ユネスコ協会も早70年もの歴史ある団体として成長いたしました。この間の関係各位の御尽力に改めて敬意を申し上げます。

中でも小学生に科学する心を育まれた31回目の開催となるユネスコ科学教室は特筆すべきものです。引き続き平和への思いや故郷や国の誇りになるものを大切にすることを育んでいただけるものと御期待申し上げます。結びに伝統と実績のある浜松ユネスコ協会の益々の御発展そして通常総会のご盛会を祈念しお祝いのメッセージといたします。



2018年度 浜松ユネスコ協会役員

会 長：小島逞壯

副会長：安藤隆敏、大石幹子、加藤泰弘

監 事：伊東政好、鈴木眞一、鈴木道子、近藤良夫

顧 問：岡本 肇、糟谷勝一、鈴木眞一、鈴木道子、山本和子、横原 幸

相談役：飯田彰一



講 話 チョウから学ぶ『科学』

5月13日(日) 於：ホテルコンコルド浜松

～ 自然界からの刺激 sense of wonder ～

浜松ユネスコ協会 副会長 安藤隆敏氏



浜松市の天然記念物にギフチョウがあります。平成2年に旧引佐町が天然記念物の指定を行いました。これは小島会長とユネスコのスタッフの調査がもとになって、その貴重価値が認められました。

私たちは、ギフチョウが生息する引佐町渋川で生態調査を進めました。調査を行っていた約30年前は、ギフチョウが乱舞し

ていました。しかし、現在はほとんど見られません。食草のヒメカンアオイは周りの草に覆われ、生育できる環境ではなくなっていました。ギフチョウの保護として、人を近づけないという活動が行われてきた結果でしょうか。科学の目でみるとギフチョウの保護は食草となるヒメカンアオイの保護であり、里山としての手入れが必要です。

アサギマダラは旅をする蝶として有名です。3ヶ月間で2200 kmを移動したという記録もあります。アサギマダラが好むフジバカマやヒヨドリバナをアサギマダラのために栽培している人もいます。食草はキジョランです。キジョランは毒性があり、それを食べる幼虫も毒性をもち、小鳥などの食べられないように警告色をしています。

アサギマダラは鱗粉がありません。長い旅をするのに都合よいのでしょうか。効率よく風を受ける羽の構造や捻りも研究され、私たちの生活に活かされています。その他にも、多くの自然を参考に作られた科学技術(バイオミメティクス)があります。

国立がんセンターの杉村隆氏は、「完全変態を行うには蛹の中で細胞の入れ替わりが必要である。そのためには古い細胞は死ななければならない。モンシロチョウには、殺す細胞と残す細胞を区別する調整機構があるのではないか。」と考えました。この研究がもとに新しい癌の治療薬の開発が進められています。

自然界はsense of wonder。刺激するものばかりです。これが科学のスタートになっています。今後も「なぜ、どうして、どのように」という疑問を大切に追究を続けていきたいと思えます。
(要旨抜粋)

講話を聴いて チョウから学ぶ『科学』 ～ 私たちが古来から愛したチョウたち～

常任理事 桑原昌子氏



こんなに細かくチョウを見つめていることに感心しました。小さな生命に対する愛情だと思います。一番心に残ったことは、孵化した幼虫が初めに自分の卵の殻を食べることでした。私たちも出産後、初めて我が子に与えるのが初乳です。初乳には子供に必要なものがたくさん含まれていることと結びつけて考えてしまいました。

着物の世界にも家紋というものがあります。男性は黒紋付き、女性は留め袖や喪服、訪問着に代々受け継いだ家紋をつけます。その家紋の中に、チョウをデザインしたものが約80種類もあります。アゲハチョウ、ゲンジチョウ、コウリンチョウなどがあります。家紋は世界に誇る美しさがあります。古来から、私たちはチョウを身近に感じ、愛してきたのだらうと感じました。
(要旨抜粋)

2018年度 ユネスコ科学教室 開講式

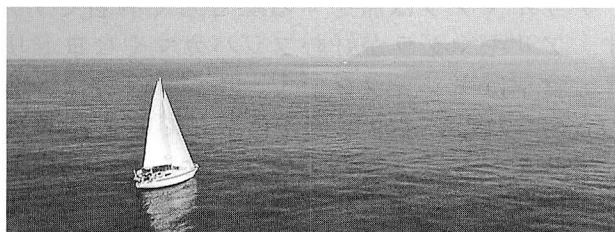
緊張と好奇心の開講式

4月29日(日) 於：浜松市地域情報センター



本年度のユネスコ科学教室・開講式は市内40校から105名が参加して行われました。会場に集まった子供たちは、初めて出会う友達に緊張しながらも、予定されている活動へのわくわくする気持ちを高めていました。

本年度の開講式では科学講話が開かれ、浅野不二夫氏より「海の科学」について学びました。浅野氏は、昨年、一人でVEGA号を操船して愛知県蒲郡市から大分県別府市まで航海をしました。その様子を紹介しながら、船の構造や帆船の推進力、海図や天気図の読み方などを解説されました。



瀬戸内海を進むVEGA号(ドローンによる撮影)

～来賓挨拶～

～科学する心と平和を願う心～

浜松市創造都市・文化振興課 生涯学習担当課長 藤田健次 氏

今年で31回目を迎える、歴史あるユネスコ科学教室を通して、皆さんに2つのことを期待します。

一つは、命や自然、人々の未来について多くのことを学ぶことで、「科学する心」、身の回りの「なぜだろう」という探求心を持って活動してほしいということです。

もう一つは、「世界の人々の平和を願う思い」です。世界という広い視野に立って生活し、平和のために行動する人になってほしいと願っています。

現代はバーチャル体験が全盛の時代ですが、この教室は「実物と出会う」「現場へ出かける」「自然と触れ合う」ことを大切にしたい活動です。子供たちにとって大変有意義な時間になると考えておりますので、保護者の皆様のご協力をお願いいたします。

(要旨抜粋)



～代表挨拶～

～五感で感じたことを自分の言葉にする～

浜松ユネスコ協会 副会長 安藤隆敏 氏

開講にあたり、ちょうど20年前、砂丘小学校を卒業した皆さんの先輩のことをお話しします。運動神経が非常に優れ、当時はサッカー選手になることを目指し、土曜日や日曜日も一生懸命に練習していました。一方で植物や昆虫にも興味を持っていました。そのため、放課後にはよく質問してきました。

5年前に竜洋昆虫自然観察公園に遊びに行ったときに声をかけてきたのが彼でした。大学では生物資源環境学科で昆虫を学んだということです。今では「こんちゅうクン」と呼ばれ、子供たちに昆虫の魅力伝えていきます。その彼が最近本を出しました。身近な昆虫について独自の視点で紹介していますので、ぜひ読んでほしいと思います。小学校のころから興味を持ち続けていたことを職業にしてしまったということが素晴らしいと思います。

最近、人工知能（AI）の研究が注目されています。この人工知能が発達したらどうなるのでしょうか。現在の高校生の約80%は、AIに負けているという研究があります。人間が行ってきた多くの職業に、将来ロボットが置き換わってしまうという心配が、いよいよ現実味を帯びているのではないのでしょうか。

これからユネスコ科学教室で活動する皆さんには、AIに使われる側ではなく、AIを使いこなす側になってほしいと思います。そのためにも、これからの活動の中でいろいろな自然の事物に対して自分の五感をしっかりはたらかせて感じ取ったことを言葉にしてください。それが文章を正しく理解する力となって、科学的な考え方をつくることになります。

(要旨抜粋)



第2回 ユネスコ科学教室

「チョウと植物 チョウの不思議」

「チョウ」から学ぶ、今の環境

5月19日(土) 於：静岡文化芸術大学



「チョウの不思議講座」では、チョウと周りの環境の関係について学びました。環境が変化することで、今までいた種類のチョウがいなくなったり、反対に現れたりします。浜松市内のギフチョウは姿を消しつつあります。また、西日本で生息していたナガサキアゲハが浜松で普通に見られるようになりました。子供たちは、自然環境が徐々に、しかし確実に変わってきてい

ることに気付いたと思います。

後半の「卵・幼虫・蛹・成虫の観察」では、スタッフ総出で集めたチョウの生きる姿を子供自らの目でじっくりと見たり、触れたりしました。まるで団子のような積み重なったサカハチチョウの卵や臭角の色が違うアゲハチョウの幼虫など、五感を使った観察もできました。また、種類によって食草が違うことや食草の甘い香りに驚きや感嘆の声が上がりました。

この講座ではチョウをより身近に感じられると共に、今、当たり前に見られるチョウが、これからの環境の変化でどうなってしまうのか、温暖化や環境に如何に人間が関わっていくべきか、改めて考えさせられる機会となりました。

(藤崎 徹)



春の女神 ギフチョウ



第1回親子公園探検隊

初夏の自然を見つけよう in 佐鳴湖公園

アカテガニに夢中 カニの泡は呼吸のため

6月9日(土)於：佐鳴湖公園

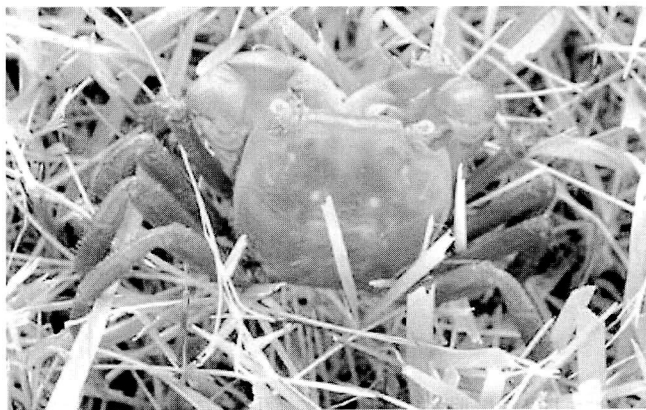
4グループに分かれ、講師を先頭に公園探検が始まりました。前日まで雨が降り、当日も曇空のため、飛翔する昆虫はあまり見られませんでした。しかし、好天ではなかなか見られないアカテガニを観察コースの至る所で、見つけることができました。

活動が始まると、子供たちは、早速名前の通り鮮やかな赤い色のハサミを持つアカテガニを捕まえては、「オスとメスはどこが違うの?」「何を食べているの?」「水は必要なの?」といった疑問を講師に尋ねていました。

アカテガニはエラ呼吸した水を口から吐き出し、腹部の脇を伝わらせて、脚のつけ根から再び体内に取り入れているので、わずかな水でも生きていくことができます。泡をはいているのは、その水も不足してきた証拠であることを聞くと、さっそく水をかけながら、夢中になって観察を続けていました。ブロック壁と崖の境目にたくさんの巣穴も発見し、アカテガニの生態に関心を深めることができました。

子供たちが主体となり、楽しい活動ができるような観察会にするためには、講師も様々な知識やその場で対応できる力が必要となります。私たちにとっても、さらなる学びが必要であることを再認識した観察会でもありました。

(袴田正義)



内科・消化器科

西脇医院 院長 西脇雅子

中区和合町176-58 ☎ <053> 412-5355

西遠は「未来を拓く女性」を育てます。

伝統の中高一貫教育/地域唯一の女子教育/新しい課題探究型学習

学園祭 10月6日(土) 7日(日) 10~15時

パンフレットでは伝えられない学園の雰囲気是非御覧ください。



静岡県西遠女子学園 中学校・高等学校

TEL:053-461-0374 WEB:www.seien.ed.jp

平和委員会 第1回出前授業

平和な世の中を願って伝えよう!

～浜松大空襲を体験して～

6月7日(木)於：浜松学芸高等学校



浜松学芸高校では、「生徒の主体性を生かした活動」という探究活動が組まれています。その中で「浜松の歴史…浜松空襲」の学習を進めている社会科学グループから、浜松ユネスコ協会平和委員会に授業への協力依頼がありました。

講師は、鈴木正之氏（前浜松市市史編さん執筆委員）、服部文枝氏（戦争体験者）の2名が務めました。

鈴木氏は、戦後、平和を願って日本国内でユネスコ活動が始まり、国内3番目に浜松ユネスコ協会が設立されましたことを紹介しました。

日清戦争から浜松への大空襲に至るまでの様子を当時の日本の置かれている状況や浜松が空襲を受けることになった理由を細かな資料を展示しながら分かりやすく話してくださいました。

戦争体験された服部氏は、当時の女学生スタイル「もんぺとセーラー服」で登場し、家族で防空壕へ逃げる様子や空襲後の様子など、御自身の体験されたことを具体的に分かりやすく話してくださいました。

学芸高校の生徒さんたちは、2時間近くに渡る話を熱心に聞いてくださり、思いも付かない当時の様子を想像して、当時の苦しみを感じ取ろうとしていました。とりわけ、戦争を体験された服部氏のお話には、現在との違いの大きさを感じ驚いていました。

当時の浜松市には、たくさんの防空壕が掘られていましたが、現在はわずかしが残っていません。浜松学芸高校の裏の牛山防空壕は、とても大きく400名が入ることができる防空壕だったようです。今は戦争遺跡となっている防空壕ですが、生徒のみなさんは、人々の命を守った大切な防空壕について、深く調べを進めたいと張り切っていました。

戦争の話をする人が少なくなる昨今、今回の講座は貴重なものだと思います。

(副会長 大石幹子)



あなたも一緒に

会員募集

問い合わせ・申し込み
事務局 三輪 宜弘
■ 053-425-8643

会員動向

会員数 (2018.7.3現在)

賛助	法人	維持	理事
32	1	6	40
普通	学生	合計	
45	0	124	



※再生紙を使用しています。